

中手子林の八幡様と

弓術の名人伝左衛門

はじめに

はらまんさま

ひらまんざま

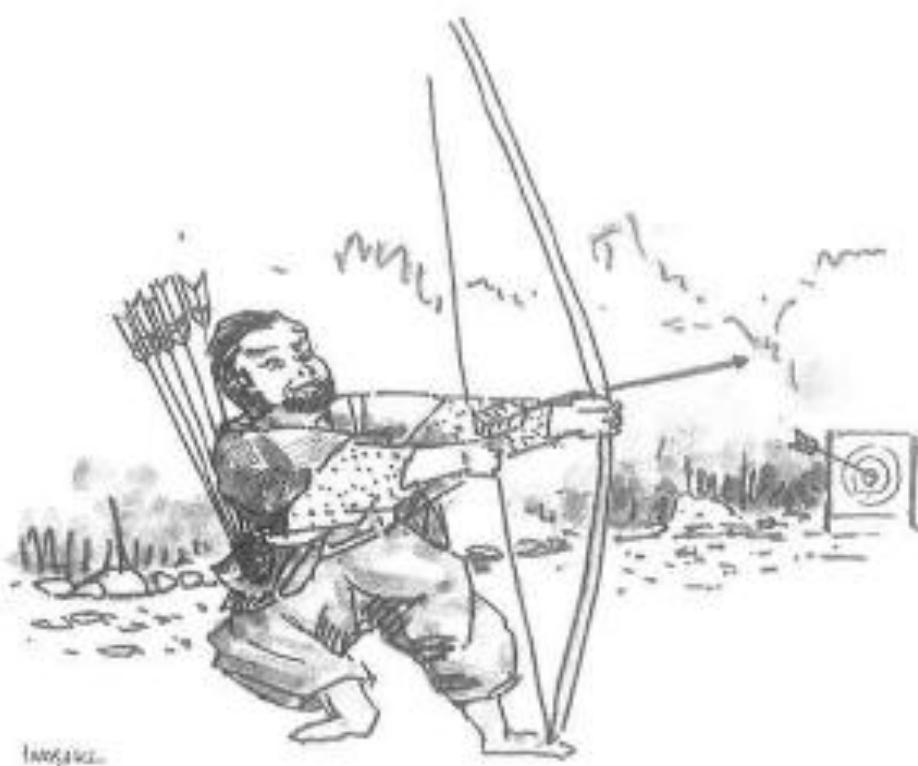
江戸時代の中頃のむかしの話です。
弓術の名人塙田伝左衛門は、日本一を競う三十三間堂通
し矢大会に出場することにしました。

伝左衛門は、若い頃から百發百中の腕前を持ち、人一倍
好奇心が強くて「日本一」は小さい時からの夢でした。毎
日風を切る弓音を「ヒューン、ヒューン」と鳴りひびかせ
て、一心不乱の稽古です。

いよいよ大会が明日という夜半、夢枕に白髪の仙人があ
らわれお告げがありました。

「己の天邪鬼を払われよ、されば必ず日本一になるこ
とができるぞ」「はい」と、自分の大きな声で目をさました。
あくる日も不思議なお告げが頭から離れません。

お告げ通り待ちに待った大会は、日本一を手にして堂々
辺地の里羽生邑に錦を飾りました。その後、夢枕に立つた
仙人は乾の方角にある中手子林の八幡様の化身であつた
といわれ、お札に石垣と石像の天邪鬼を寄進し、大会に使つ
た弓と矢を奉納しました。今でも大切に拝殿に保存し八幡



様の宝物にしています。

村の子供たちが遊びにきくは、「あまのじやくふんづぶせ」「あまのじやくふんづぶせ」と、天邪鬼の石像を埋めた上を踏みつけ、楽しく遊びながら幸せな成長のお守りのようになります。

日本一になつてからの伝左衛門は、弓術の名人として三十年余りも諸国をめぐり歩き、仙台（東北）で病氣のため五十四才の生涯を空しく閉じました。弓登廻順信士となつた伝左衛門は、さうと八幡様のご神体と共に静かに村人たちを見守つていることでしょう。

◎昔は夢といふものに不思議なほど信仰をよせたものです。

※天邪鬼　人に迫る、人の邪魔をする悪者

